

公益社団法人 日本天文学会

2025 年度事業報告書

I. 出版物の刊行(定款第 2 章第 5 条 2 項に該当の事業)

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第77巻2号-6号、77巻SP1号、第78巻1号の計7回刊行。総論文数153編 (うちLetter 13、特集 28)、総頁数1,891頁、電子版および紙版 (発行部数35部)、偶数月発行。
2. 天文月報 : 第118巻5号-12号、第119巻1号-4号を刊行。総頁数784頁、発行部数約3,400部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集 : 2025年秋季年会発行総頁数356頁、210部印刷。2026年春季年会発行総頁数306頁、210部印刷。
4. ジュニアセッション : 予稿集84頁、450部印刷。
5. シリーズ 現代の天文学 : 第7巻「恒星」の第2版を刊行した。

II. 年会の開催(定款第 2 章第 5 条 1 項に該当の事業)

1. 2025 年秋季年会

2025年9月9日(火)から11日(木)の3日間、海峡メッセ下関(山口県下関市、ホスト:山口大学・周南公立大学)にて開催した。遠隔地から参加していただけるように、現地およびオンライン(ベストエフォート)のハイブリッド開催とした。ポスター講演の掲載は、オンラインで掲示するとともに、現地会場でも掲示を行った。講演件数は口頭講演が598件、ポスター(b・c)講演が162件で、合計760講演であった。参加登録人数は会員1,068名、非会員96名の計1,164名であった。本年会では、通常講演のほかに企画セッション2件、天文教育フォーラムを含む特別セッション2件、欧文研究報告論文賞の受賞記念講演を開催した。記者発表(講演1件)は9月8日(月)にオンラインで開催した。展示コーナーは賛助会員による展示2件の展示があった。また保育室を開設し、4家族4名の利用があった。懇親会は9月10日(水)に行い、出席者は来賓1名を含む一般126名、学生78名の合計204名であった。公開講演会は9月13日(土)に下関市生涯学習プラザで開催し、約200名が来場した。

2. 2026 年春季年会

2026年3月4日(水)から7日(土)の4日間、京都産業大学(京都市北区、ホスト:京都産業大学・京都大学)にて開催した。遠隔地から参加していただけるように、現地およびオンライン(ベストエフォート)のハイブリッド開催とした。ポスター講演の掲載は、現地会場で掲示するとともに、オンラインでも掲示を行った。講演件数は口頭講演が487件、ポスター(b・c)講演が139件で、合計626講演であった。参加登録人数は会員1,023名、非会員112名の計1,135名であった。本年会では、通常講演のほかに天文教育フォーラムを含む特別セッション2件、林忠四郎賞・研究奨励賞の受賞記念講演、ジュニアセッション(3月7日(土))を開催した。記者発表は3月3日(火)に開催した。展示コーナーは賛助会員による展示4件と正会員による1件の展示があった。また保育室を開設し、1家族2名の利用があった。懇親会は3月6日(金)に行い、出席者は来賓4名を含む一般130名、学生94名の合計224名であった。公開講演会は3月8日(日)に京都産業大学むすびわざ館ホールで開催し、約80名が来場した。

Ⅲ. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査

(定款第 6—8 章第 38—59 条及び第 4 章第 23 条に該当の事業)

1. 代議員総会

日 時：2025 年 6 月 17 日（火）16 時 00 分～18 時 13 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 9 月 10 日（水）11 時 50 分～12 時 50 分

場 所：海峡メッセ下関（ハイブリッド開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 1 月 13 日（火）9 時 30 分～12 時 40 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2026 年 3 月 5 日（木）11 時 50 分～12 時 35 分

場 所：京都産業大学（ハイブリッド開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2025 年 6 月 2 日（月）16 時 00 分～18 時 32 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：井田 茂（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 6 月 17 日（火）18 時 30 分～19 時 45 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 9 月 5 日（金）17 時 00 分～18 時 40 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2025 年 12 月 22 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分

方 法：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2026 年 3 月 2 日（月）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

議 長：太田 耕司（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2025 年 9 月 10 日（水）16 時 30 分～17 時 30 分

場 所：海峡メッセ下関（ハイブリッド開催）

司 会：永井 洋

日 時：2026 年 3 月 5 日（木）16 時 30 分～18 時 00 分

場 所：京都産業大学（ハイブリッド開催）

司 会：永井 洋

4. 公益社団法人 2024 年度監査

日 時：2025 年 5 月 22 日（木）13 時 00 分～15 時 00 分

場 所：国立天文台すばる棟院生セミナー室

出席者：松尾宏監事、山田亨監事、鈴木竜二会計理事、酒向重行会計理事、勝川行雄庶務理事、
黒岩真秀事務長代理

IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の 22 の委員会と 1 の顧問において構成メンバー（任期 2 年の 1 年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 選挙管理委員会

第 9 期代議員（任期：2026 年度～2029 年度）の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り行った。2025 年 11 月 7 日～12 月 4 日を投票期間とし、2025 年 12 月 11 日に開票作業を行った（投票率 41.1%）。代議員選挙施行細則第 10 条により、定数 24 名の当選者を得票順に決定し、あわせて次点 2 名を補欠として決定した。以上の選挙結果を天文月報 119 巻 2 号において報告した。その後、選出代議員の退会により欠員が生じたため、日本天文学会定款第 36 条の規定に基づき、欠員補充の手続きを行った。

◇ 推薦委員会

第 9 期代議員（任期：2026 年度～2029 年度）の選挙について、代議員選挙施行細則第 7 条に則り、候補者の推薦を行った。具体的には、会員から広く候補者の推薦を募るため、2025 年 9 月 20 日～10 月 3 日に候補者の推薦を受け付けた。受け付け締め切り後、本委員会で代議員候補として被推薦者の選出を行い、その結果を 2025 年 10 月 15 日に選挙管理委員会へ報告した。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2025 年度は 170 編の投稿論文を編集委員が分担して査読手続を行い、合計 7 号（通常号 6 号、増刊特集号 1 号）に 153 編・1,891 頁を掲載した。特集企画として、通常号には流星科学特集、増刊号では XRISM 衛星初期成果特集を掲載した。また、投稿促進のため 2025 年 4 月より開始した本文掲載料の半額キャンペーンについては、その反響を考慮しさらに 1 年間延長することを決定したほか、査読者選定の円滑化を目的として投稿査読システムへ「査読者候補推薦機能」を追加した。2025 年 12 月 23 日には編集顧問委員合同会議をオンラインで開催し、現在の刊行状況などの情報共有に加え、今後の特集企画や最近の投稿論文における問題点、オープンアクセス論文掲載料の高騰等について、OUP 社を交えて話し合った。

◇ 欧文研究報告編集顧問

2025 年 12 月 23 日に編集顧問委員合同会議をオンラインで開催し、現在の刊行状況などの情報共有に加え、今後の特集企画や最近の投稿論文における問題点、オープンアクセス論文掲載料の高騰等について、OUP 社を交えて話し合った。

◇ 天文月報編集委員会

編集会議は月に一度、Zoom 会議システムを用いて開催し、天文月報の編集作業を行った。また、2025 年 9 月 10 日に年会会場（海峡メッセ下関）、2026 年 3 月 5 日に年会会場（京都産業大学）にて対面編集会議をハイブリッドで開催した。記事においては、2 つの特集（ひさき特集（前年度からの継続）、アストロバイオロジーセンター 10 周年特集）を組んだほか、シリーズ企画として、「海外の研究室から」、「2040 年のスペース天文学へ」、「アカデミアの外を知る」、および昨年度から引き続き「天文学者たちの昭和：日江井榮二郎氏ロングインタビュー」を掲載した。また、内海和彦氏、平山淳氏、小暮智一氏、谷口義明氏、Jeremiah Paul Ostriker 氏の追悼記事を掲載した。会務案内記事としては、日本天文学会行動規範の記事（ハラスメント防止ガイドライン策定タスクフォー

ス) を掲載した。天文月報の事業であるオーラル・ヒストリーの取材では、熊本大学の高橋氏を中心に進め、全体集会などを通して協力者を募集した。2025 年度においては、元文科省の方を含む 7 名に取材を行った。

◇ 年会実行委員会

秋季年会 (2025 年 9 月 9 日～11 日・ハイブリッド) および春季年会 (2026 年 3 月 4 日～7 日・ハイブリッド) を開催した。両年会の準備にあたっては、2025 年 7 月 10 日、10 月 23 日、2026 年 1 月 9 日にオンラインにて年会実行委員会およびプログラム編成会議を開催した。また、新しい年会プラットフォームの導入準備にあたっては、仕様確定のため、一部の委員により 2025 年 12 月から 2026 年 2 月にかけてオンラインで計 7 回の打合せを実施した。

◇ 天文教育委員会

春季年会及び秋季年会開催時に天文教育フォーラム (日本天文教育普及研究会と共催) をハイブリッド形式で開催し、それぞれ「天文コミュニティは学習指導要領とどう向き合うか」「デジタル教材+生成 AI 時代の天文教育」というテーマに 100 名以上が参加した。今回 3 回目の企画開催となる中高生と教員を主対象とした対話型の講演会「中高生・教員と若手研究者の天文対話」(天文教育普及研究会、日本地学教育学会、京都府教育委員会の後援) をハイブリッド形式で開催し、60 名ほどが参加した。講師紹介プログラムでは本年度 7 件の依頼に 5 名を紹介し、監修者紹介プログラムでは本年度 5 件の依頼に 4 名を紹介した。加えて、男女共同参画委員会と共同で宿泊型探求プログラム「女子中高生夏の学校」のポスターセッション、キャリア相談会に参加して天文学の紹介展示などを行なうほか、約 2 か月に 1 度の定期的な委員会や国際天文学連合 (IAU) の Office of Astronomy for Education (OAE) の活動など、天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ ネットワーク委員会

日本天文学会のウェブサイトについては、保守管理の委託業者と連携しウェブサーバの運用を行った。学会が運用しているメーリングリスト (TENNET) とそのアーカイブ公開は、外部業者が提供するクラウドサービスを利用し運用を行った。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報 2025 年 9 月号並びに TENNET で、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を 11 月 4 日締切で会員に依頼した。11 月 23 日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補 1 件、欧文研究報告論文賞候補論文 2 篇を選出し、2026 年 1 月 13 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報 2025 年 9 月号並びに TENNET で第 37 回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2025 年 12 月 4 日および 11 日に選考委員会をオンラインで開催し、候補者 3 名を選出し、2026 年 1 月 13 日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 130 回から 133 回までの 4 回実施した。応募 55 件 (前年度 62 件) から 25 件 (うち 2 件辞退、前年度 29 件) を選び、採択率は 45%であった。採択額は 5,637,390 円 (前年度 5,909,310 円)、今年度内に支給した総額は 5,196,564 円であった。

◇ 国内研修支援金選考委員会

2026 年度の国内研修支援金の希望者募集を、天文月報 (2025 年 6 月号)並びに TENNET にて実施した。応募件数は 0 件だった。E メール等による応募や研究指導に関する問い合わせも、今年度はな

かった。委員会内では、「本支援金の制度そのものを見直す時期に来ているのかもしれない」という意見も出されている。

◇ 天体発見賞選考委員会

2025年度の天体発見賞、天体発見功労賞、及び天文功労賞の第一回選考会議を、2025年12月15日にハイブリッド形態（広島大学学士会館会議室+Zoom利用）で開催した。また、天体発見賞・天体発見功労賞では12月末日までの天体発見が受賞対象となることから、第二回選考会議を2026年1月5日にオンライン（Zoom利用）で開いた。天体発見天体発見賞、天体発見功労賞については、TNSや、CBET、MPEC、ATel等の速報資料に基づき選考を行った。天文功労賞については、会員および当委員会委員からの推薦に基づき選考を行った。なお、これに先立って天文月報2025年9月号および2025年8月にTENNETで天文功労賞候補者の推薦募集を告知し、会員からの推薦が3件あった。選考会議の結果、天体発見賞3氏5件、天体発見功労賞2氏3件の候補を選出した。天文功労賞（長期部門）については最終的に2件（計2氏）を、天文功労賞（短期部門）については2件（計11氏、2団体）を選出した。これらの選考資料を2026年1月13日に開催された代議員総会に提出し、選考通りの授賞が確定した。また、2026年3月5日に年会会場で開かれた各賞授賞式に出席する受賞者を待合室にて迎えて授賞会場へエスコートする役目を、天文教育普及賞選考委員会、及び日本天文遺産選考委員会と共に引き受けた。さらに、授賞式の後、灯-AKARI-（京都市中京区）にて「受賞者を囲む会」を主催し、17名の受賞者及び同伴者を始めとした計46名の参加を得た。

◇ 日本天文遺産選考委員会

天文月報2025年7月号、TENNET、および学会Webページ、その他関係団体のメーリングリストなどで、日本天文遺産（第8回）の推薦を会員等に依頼した。2025年9月及び10月にオンライン会議による選考委員会を開催するとともに随時メールでの協議や投票を実施し、会員等からの新規推薦6件及び昨年度までに認定に至らなかった候補を合わせて26件について検討を行い、候補4件に絞り込んだ。このうち3件の候補について現地調査等の詳細調査を実施し、所有者及び管理者の意向確認を行った結果、2件を最終候補として2026年1月に開催された代議員総会へ推薦した。総会では2件とも日本天文遺産として認定され、認定結果を3月3日の記者会見で発表した。認定証及び記念品（楯またはパネル）の贈呈式を、3月5日の会員全体集会にあわせて実施し、各遺産の所有者/管理者等の関係者が出席され、それぞれから挨拶をいただいた。なお、現地調査に時間を要する候補が存在しているため、今年度から委員会予算の範囲内で現地での予備調査を行うこととし、前述の4件の候補のうち残り1件について2026年2月に現地予備調査を実施した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

第8回天文教育普及賞候補の選考を行った。天文月報・TENNETを通じて9月末締切で推薦を依頼した。新たに7件の推薦があり、うち1件は過去の推薦と重複するものであった。昨年度までの分を加えて23件について、2025年10月13日にオンラインにて選考委員会を開催した。委員全員出席のもとでの議論の結果3件（個人2件、団体1件）を授賞候補とすることを決定した。2026年1月13日に開催された代議員総会で審議が行われ、提案通り授賞が決まった。その後、Webサイトで公表され、授賞結果の詳細は、3月3日に春季年会に先立つ記者会見で発表された。また、3月5日の全体集会において表彰式を行った。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2026年春季年会（京都産業大学およびハイブリッド開催）にて第28回ジュニアセッションを開催した。2026年1月15日の予稿提出締め切りを受けて、1月25日にプログラム編成会議を国立天文台三鷹にて対面+オンラインで実施したほか、随時各委員、世話人が年会実行委員、開催地理事とともにメール等で連絡を取りつつ運営に関する議論・調整・準備作業を行った。タイからの発表7件を含め、合計69件の発表（口頭およびポスター）が行われた。口頭発表は57件あり、42件が現地会場

で、15 件がオンラインで行った。現地参加が発表者生徒 142 名、指導者 38 名に加え、年会参加の研究者、教育研究者、保護者等一般の方など計約 270 名、オンライン参加者は約 120 名と推計され、のべ参加者数は約 390 名であった。発表数は昨年より増加したのに対し、開催日程の影響で現地参加者は減少した。予稿集を編集し、発行した。発表者には予稿集と参加証を配布した。予稿集は会場希望する聴講者に約 50 部を配布したほか、ジュニアセッション HP から PDF を閲覧できるようにした。ハイブリッド開催として、口頭セッションはオンライン参加者も含めた全員参加で実施した。一方、ポスターセッションは、対面での議論が可能な現地会場のみで行った。さらに、発表資料を 4 月末までジュニアセッション HP から公開し、コメントフォームから投稿された各発表への質問・コメントをとりまとめて、発表者に送付した。

◇ 男女共同参画委員会

2025 年 8 月 10 日に、男女共同参画学協会連絡会が主催し、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された、宿泊型探求プログラム「女子中高生夏の学校」のポスターセッション、キャリア相談会に参加し、参加した女子中高生に宇宙・天文学の魅力を伝えた。天文教育委員会と共同で参加し、当日のブースはスタッフ 2 名、学生 3 名で対応した。2026 年 2 月 21 日に開催された、日本学術会議主催の学術フォーラム「STEM 分野の未来を支える多様性—理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？家庭？地域？」の企画と参加を行った。現地、オンライン合わせて 450 名の参加があった。男女共同参画委員会から数名、日本天文学会 Code of Conduct/ハラスメント防止ガイドライン策定タスクフォースに参加し、活動を行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、他の 8 団体と協力し、第 33 回衛星設計コンテストを実施した。今年度は総計 46 件の応募があり、昨年度より 16 件の減少となったが、これは応募が従来より厳選されて来た結果と思われる。内訳は、設計の部 4、アイデアの部 16、ジュニアの部 26 で、うち設計の部の 1 件が海外（台湾 National Cheng Kung University）からであった。書面審査により、設計の部 2（海外 1 を含む）、アイデアの部 5、ジュニアの部 6 の合計 13 件が一次審査を通過した。それらを対象とした最終審査会は 2025 年 11 月 22 日（土）に、東京都千代田区の連合会館にてハイブリッド形式で開催され、審査により各賞が決定された。日本天文学会賞は、ノートルダム清心高等学校と広島県立広島中学校の合同チームによる、ジュニアの部の提案「マイクロ波エネルギー伝送による氷衛星探査」に授与された。3 部門それぞれの大賞は 1 件ずつ選ばれたが、文部科学大臣賞には 3 年続けて該当が無かった。詳細は <http://www.satcon.jp/> を参照されたい。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

5 月 15 日から全国同時七夕講演会の Web ページ上で対面開催およびオンライン開催の両方の講演会の登録受け付けを開始した。また、天文教育普及研究会の共催および日本学術会議と日本プラネタリウム協議会の後援を取得した。7 月 7 日の七夕の日や、伝統的七夕の日（令和 7 年は 8 月 29 日）を中心とした 6 月下旬から 9 月上旬の間に 42 会場の 67 件の講演会が実施され、これらのうち対面開催は 39 会場の 63 件（うち 2 会場 2 件の講演会はオンラインとのハイブリッド開催）、オンラインのみの開催は 4 会場 4 件だった。これらのうち 27 会場の 35 件の講演会の主催者から参加者の報告があり、当日参加者数と 9 月末までの講演会の視聴者数（録画も含む）の合計は 4,037 人だった。

◇ キャリア支援委員会

2025 年度も、天文学コミュニティに属する研究者や学生がそのキャリアを切り拓いていくことを支援することを目的にさまざまな活動を行った。具体的には、オンラインの談話会である「キャリアカフェ」を実施した他、天文学と社会を繋ぐ職種の人事情報の収集（44 件）と発信、天文月報における連載記事の企画・執筆協力（シリーズ：アカデミアの外を知る）等を行った。天文天体物理若手の会の主催する夏の学校におけるキャリアセッションにも協力し、講演者の紹介および謝金・

旅費の支援を行った。これらの活動については情報を整理し、学会ウェブサイトの方へも掲載を行った。

◇ コンプライアンス委員会

本年度は、会長または代議員総会からコンプライアンスに関わる事案の諮問がなかったため、本委員会は開催されなかった。

◇ インターネット天文学辞典編集委員会

「インターネット天文学辞典」 (<http://astro-dic.jp/>) の更新・改良・維持運用を行っている。2026年4月7日時点での登録用語数は3,395用語である。編集委員は主にメールにて連絡を取り合い、日常的に改訂・更新作業を分業している。この1年間(2025年4月1日から2026年3月31日)での内容更新数は222回である。並行して、制作委員による会議を毎月1回行い、アクセス解析やコンテンツの改良等を行ってきた。利用者からのフィードバックは4月6日までの1年間で73件あった。そのうち、約半数を占める、内容が妥当な指摘については適宜対応した。外部へのリンク切れも定期的にチェックし適宜対応した。総アクセス数は、季節変動があり、中学校・高等学校・大学での利用が多く部分を占めていると予想している。2025年度の最大は月約20万アクセス程度で、昨年度と同じ程度である。アクセス解析では反復利用者の割合が増加しており、アクセス数が昨年度より若干減少したことも含めて、本辞典の利用が市民に定着してきたことがうかがえる。スマートホン等のモバイル端末からの利用割合が増加してきたため、PCからの利用を想定していた従来のデザインからの変更作業を継続している。

◇ 日本天文学白書委員会

2ヶ月に1回程度、Zoomによる委員会を開催し、白書作成の方針や年会における特別セッションの開催について議論した。2025年9月に執筆者を募集し、委員も含め60名程度の執筆者が集まった。2026年1月より各章ごとのチームで執筆を開始し、2026年3月に中間報告が行われた。一方、2025年秋季年会において特別セッション「みんなで天文学の未来を語ろう！(第3回)」、2026年春季年会において特別セッション「みんなで天文学の未来を語ろう！(第4回)」を開催し様々なサイエンスについて議論を行った。

V. 各賞の授与(定款第2章第5条7項に該当の事業)

2025年度日本天文学会各賞および日本天文遺産の認定は、2026年1月13日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

◇ 林 忠四郎賞 (1氏)

大向 一行 (おおむかい かずゆき) 氏・東北大学 教授
研究の表題「初代天体形成過程の理論的研究」

◇ 欧文研究報告論文賞 (2編)

・論文題目：HSC-XXL: Baryon budget of the 136 XXL groups and clusters

著者：Daichi Akino et al.

出版年等：Vol. 74 (2022), No. 1, pp. 175–208

・論文題目：CO Multi-line Imaging of Nearby Galaxies (COMING). IX.

$^{12}\text{CO}(J=2-1)/^{12}\text{CO}(J=1-0)$ line ratio on kiloparsec scales

著者：Yoshiyuki Yajima et al.

出版年等：Vol. 73 (2021), No. 2, pp. 257–285

- ◇ 研究奨励賞 (3 氏)
 - ・ 尾上 匡房 (おのうえ まさふさ) 氏・早稲田大学高等研究所 講師
研究の表題：遠方超巨大ブラックホールの革新的な観測研究
 - ・ 鄭 昇明 (ちょん すんみょん) 氏・Max Planck Institute for Astrophysics 研究員
研究の表題：宇宙初期における低金属度星の初期質量関数の進化に関する理論的研究
 - ・ 行方 宏介 (なめかた こうすけ) 氏・京都大学白眉センター 特定助教
研究の表題：多波長観測と太陽・恒星の比較による恒星スーパーフレアと
コロナ質量放出の理解
- ◇ 天体発見賞 (3 氏、5 件)
 - ・ 櫻井 幸夫 (さくらい ゆきお) 氏・1 件
新星 V7991 Sgr の発見
 - ・ 板垣 公一 (いたがき こういち) 氏・3 件
新星 V7992 Sgr の発見, 超新星 2025cof の発見, 超新星 2025fvw の発見
 - ・ 小嶋 正 (こじま ただし) 氏・1 件
新星 V4371 Oph の発見
- ◇ 天体発見功労賞 (2 氏、3 件)
 - ・ 小嶋 正 (こじま ただし) 氏・2 件
新星 V7993 Sgr の独立発見, 新星 V7994 Sgr の独立発見
 - ・ 金津 和義 (かなつ かずよし) 氏・1 件
新星 V7994 Sgr の独立発見
- ◇ 天文功労賞
 - 長期的な業績 (2 氏、2 件)
 - ・ 津村 光則 (つむら みつのり) 氏
「50 年以上にわたる彗星観測および天体画像を用いた啓発活動による貢献」
 - ・ 中村 彰正 (なかむら あきまさ) 氏
「日本のアマチュア天文家による彗星光度観測の国際化と観測者育成への貢献」
 - 短期的な業績 (11 氏、2 団体、2 件)
 - ・ 鎌塚 吉忠 (かまづか よしただ) 氏、星と森のロマンティア 天文台「銀河」、
信太 浩信 (しだ ひろのぶ) 氏、島田 雅宏 (しまだ まさひろ) 氏、
関口 孝志 (せきぐち たかし) 氏、東京都立立川高等学校天文気象部、
藤井 大地 (ふじい だいち) 氏
「2025 年 8 月ペルセウス座流星群における極めて稀なクラスター現象の発見と解析」
 - ・ 石田 正行 (いしだ まさゆき) 氏、井狩 康一 (いかり やすかず) 氏、
山村 秀人 (やまむら ひでひと) 氏、渡部 勇人 (わたなべ はやと) 氏、
真砂 礼宏 (まなご のりひろ) 氏、宮下 和久 (みやした かずひさ) 氏
「掩蔽観測による小惑星の衛星の日本初の発見」
- ◇ 天文教育普及賞 (2 氏・1 団体、3 件)
 - ・ 東山 正宜 (ひがしやま まさのぶ) 氏
「国内外の天文台等からの定常的な高品質星空ライブ映像の配信」
 - ・ 公益財団法人 倉敷天文台
「民間初の公開天文台として 100 年間にわたる天文教育普及活動」
 - ・ 茶木 恵子 (ちゃき けいこ) 氏
「市民主導による多彩で持続的な天文普及活動」

- ◇ 日本天文遺産（2件）
 - ・「星座石と陸奥州気仙郡唐丹村測量之碑」
所有者：釜石市
管理者：本郷文化財愛護少年団育成会・釜石市教育委員会
 - ・「上松赤外線望遠鏡」
所有者：兵庫県公立大学法人
管理者：兵庫県公立大学法人（兵庫県立大学西はりま天文台）

VI. 助成金(定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業)

- ◇ 早川幸男基金
若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として、早川幸男基金選考委員会の選定に従い、予算総額6,000千円に対して、24名に総額5,196,564円を支給した。
- ◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）
賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（海峡メッセ下関）、春季年会（京都産業大学）に参加して研究発表をするための一部補助を行った。（発表者：26名、総額538千円）
- ◇ 国内研修支援金
2025年度に続き、2026年度を対象とした国内研修支援金の応募者はゼロであった。
- ◇ 若手国際交流研究会基金の準備
寄附金による新規支援事業として、若手研究者の国際交流をより活発化することを目指した国際研究会開催の助成を行う「若手国際交流研究会基金」について、2026年度の事業開始に向け準備タスクフォースにて事業体制等を検討整備し、2025年12月理事会での承認を受け若手国際交流研究会選考委員会の設置、内規の制定を行った。

VII. 後援事業等(定款第2章第5条8項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの後援14件、協賛9件（共催0件）を決定した。

承諾日	実施月	種別	事業名	宛先（代表者）
2025/4/4	2025/6	協賛	第50回光学シンポジウム	一般社団法人 日本光学会
2025/4/21	2025/7	後援	第55回 天文・天体物理若手夏の学校	天文・天体物理若手夏の学校事務局
2025/4/21	2025/6	後援	青少年のための科学の祭典 2025	日本科学技術振興財団
2025/4/28	2025/9	協賛	第43回レーザーセンシングシンポジウム	レーザーセンシング学会
2025/4/28	2025/7	後援	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2025（第19回）	NPO 法人 natural science
2025/4/28	2025/8	後援	第71回全国研究大会東京大会	科学教育研究協議会
2025/5/7	2025/6	後援	シンポジウム「天文学と社会」	「天文学と社会」連絡会
2025/5/12	2025/7	後援	第15回高校生天文活動発表会	高校生天文活動発表会実行委員会
2025/5/28	2025/11	協賛	第69回宇宙科学技術連合講演会	日本航空宇宙学会
2025/6/9	2025/8	後援	日本天文教育普及研究会 2025年会	日本天文教育普及研究会

2025/6/9	2025/11	後援	日本学術会議 公開シンポジウム	日本学術会議物理学委員会
2025/6/26	2026/6	後援	国際会議「Cool Stars 23」	組織委員会
2025/7/8	2025/10	後援	教育用電波望遠鏡キット活用ワークショップ	国立天文台天文情報センター
2025/7/18	2026/6	協賛	15 th International Conference on Optics-photonics Design & Fabrication (ODF26)	一般社団法人 日本光学会 光設計研究グループ
2025/8/12	2025/12	協賛	Optics & Photonics Japan 2025	一般社団法人 日本光学会
2025/9/2	2026/2-3	後援	三鷹の森 科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」	みたか太陽系ウォーク 実行委員会
2025/10/2	2025/10	後援	2025 年度「三鷹・星と宇宙の日」	国立天文台
2025/12/18	2026/7	協賛	第 32 回レーザレーダ国際会議	レーザセンシング学会
2026/1/6	2026/2	後援	「STEM×ジェンダー×教育」フォーラム	日本学術会議
2026/2/11	2026/5	協賛	JpGU-AGU Joint Meeting 2026	日本地球惑星科学連合 (JpGU)
2026/2/24	2026/3	協賛	URSI 日本電波科学会議 (URSI-JRSM 2026)	電子情報通信学会
2026/3/2	2026/9	協賛	日本流体力学会 年会 2026	一般社団法人日本流体力学会
2026/3/26	2026/8	後援	第 72 回全国研究大会	科学教育研究協議会

Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第 2 章第 5 条 7 項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、TENNET・天文月報などで候補者を広く募り、会長と副会長が中心となり選考した上で学会としての正式の推薦を行った。

(日本学術振興会育志賞 1 件、島津奨励賞 1 件、井上賞 2 件、東レ科学技術研究助成 2 件[1 件助成決定]、山田科学振興財団研究援助 4 件)

Ⅸ. 事務所活動(定款第 1 章第 2 条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員 3 名と 6 名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。また、2025 年 3 月末での事務長退職に伴い、2025 年 7 月に新事務長が着任した。

Ⅹ. 代議員選挙(定款第 5 章第 32 条に該当する事業、「代議員選挙施行細則」に準拠する)

第 9 期代議員を選出するための選挙を行い、24 名の代議員と 2 名の補欠が決定し、天文月報第 119 巻(2026)2 月号において報告した。

Ⅺ. その他

2024 年 6 月に発足した CoC/ハラスメント防止ガイドライン策定タスクフォースにおける議論の中で、ハラスメント相談窓口を日本天文学会に設置する必要性が認識され、ハラスメントに関する高い専門性を持った外部相談窓口サービスに委託してハラスメント外部相談窓口を設置することが、2025 年 12 月開催の理事会および 2026 年 1 月開催の代議員総会において承認された。

これを受け、2026 年 4 月の窓口開設に向けた準備を進め、2026 年 3 月の会員全体集会において開設する窓口について会員に周知した。

会 員 数

2025年度末（2026年3月31日）現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2025年3月31日	2,401(673)	931	35	46	3,413
入 会	307(286)	47	0	0	354
退会・除籍等 [うち 除籍]	注1 △218(134) [△35(0)]	△75 [△21]	△1 [0]	△3 [0]	△297 [△56]
移 籍 (増)	注2 11(4)	12	—	—	23
移 籍 (減)	注2 △12(3)	△11	—	—	△23
正会員へ(学生減)	注3 △(91)	—	—	—	—
2026年3月31日	2,489(735)	904	34	43	3,470

(注1：除籍とは会費未納による資格喪失を指す)

(注2：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(注3：学割扱いの正会員から通常の正会員への移動を指す)

(文責：庶務理事 永井 洋)